

あまみす

雨水利用を進める市民の会
会長 長瀬 和男
〒131 東京都墨田区東向島1-8-1
☎ 03-3611-0573
FAX 03-3611-0574



世界で初めて

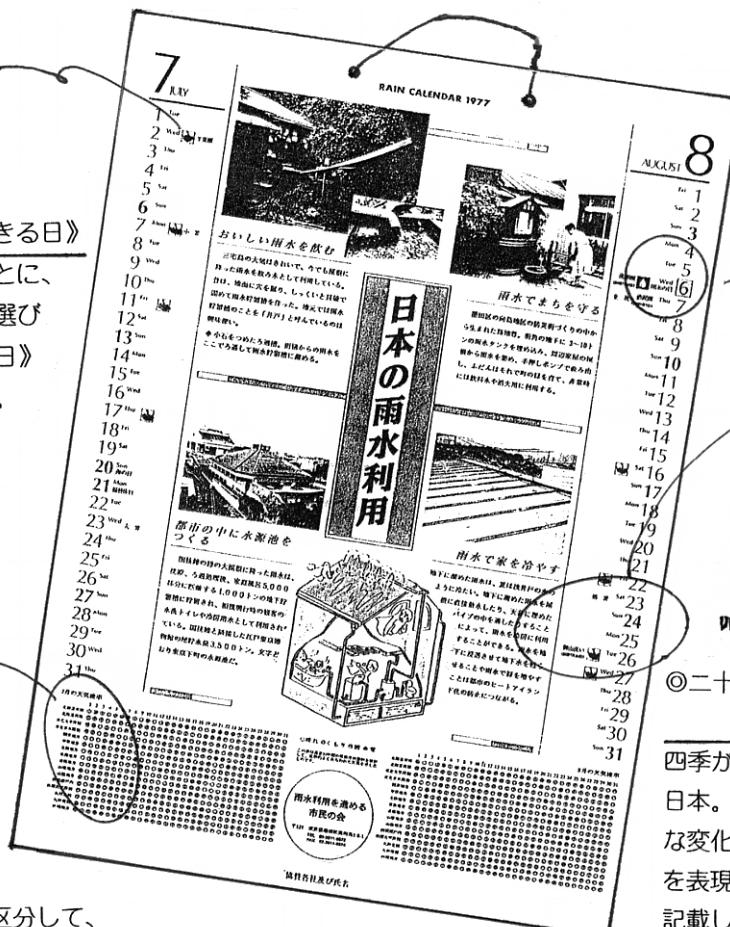
'97 雨のカレンダーが完成

名付けて、「雨暦（あめごよみ）」。'96雨水フェアの川柳コンテスト作品の紹介、雨のいろいろな「顔」を表現した《雨の言葉》集、日本や世界で実践されている雨水利用の紹介、雨をテーマにした隨想など、興味深い内容を盛り込みました。
きっと、雨と私たちとのキューピットになってくれるでしょう。
ぜひ、多くの方に勧めてくださるよう、お願いいたします。

◎傘のマークは
『雨水利用のできる日』
気象統計データをもとに、
降水確率の高い日を選び
『雨水利用のできる日』
として表示しました。

7月の天気確率
北関東西部 ①①①④⑤⑥⑦
北関東首都圏 ①②③④⑤⑥⑦
東北太平洋岸 ④⑤⑥⑦⑧⑨
東北日本海側 ⑥⑦⑧⑨⑩

◎全国の
お天気確率表
全国を16の地域に区分して、
各地域の30年間の気象統計データに基づき、最もよく現れた天気を表示した表を、各月ごとに記載しました。
この表を参考に、あなたが住む地域のあしたの天気を占ってみるのも一興です。



8月6日は
「雨水の日」

Fri 22
Sat 23
Sun 24
Mon 25
Tue 26

郡山市立いわき市立病院

◎二十四節気・雨のことば、など
四季がはっきりしている日本。季節によって、微妙な変化をみせます。この機微を表現した《二十四節気》を記載しました。

1部 1,000円
(送料は別で、
申込者の負担となります。)

また、雨にまつわる伝承などを表現した言葉も記載しました。雨に培われた日本の文化の一端をうかがうことができるでしょう。

’96
富士山近郊雨水利用調査報告

富士山に降る雨

| その利用と被害 |

技術部会・情報部会

■小川 幸正 ■市川 龍



平成8年9月7日(土)と8日(日)の2日間、市民の会では、富士山近郊の雨水利用および雨水による土石流被害の調査を行いました。7日朝の8時半、23名を乗せた小型バスは墨田区役所前を出発し、目的地の富士山5合目で、自家用車で参加した約10名と合流しました。今回の調査隊のリーダーは徳永さん、サブリーダーは市川です。

土石流の被害

午後1時半ごろ到着、早速、富士山5合目第一駐車場下方の、雨水によってできた浸食沢へ向かいました。浸食沢は駐車場から徒歩数分のところにあります。幅50メートル、長さ1キロメートルにわたって、立木が土砂で埋まり、あるいは立ち枯れおりました。隊員の中から「賽の河原のようだ」と声があががったほど、それは息を呑む光景でした。

原因の一つは、完全舗装の駐車場や周辺施設などに降った雨水、雪解け水が、地下に浸透せずに、排水管からこの森林に放出されたことにあります。駐車場の雨水排水は、排水管から地下浸透するように設備されたようです。しかし、途中でゴミが詰まっていたりして、充分に機能していないと見受けられました。もう1つの原因是、富士山の沢崩れのため駐車場の上部から土石流が流れ込んだことです。

現在の駐車場を3階4層の立体駐車場にする建設予定がありましたが、この浸食沢のため、1992年5月に棚上げになつたきさつがあります。森林自体が、酸性雨によって弱まっています。麓に向かって広がる広大な浸食沢に立って、実に悲しい気持ちになりました。富士山の緑の絨毯を、これ以上失いたくないと思います。

レストハウスの雨水利用

浸食沢をくい止める一つの方法として、5合目のレストハウスや土産物店の屋根雨水を利用できないだろうか。この疑問をもって、これらの施設の雨水利用調査をしました。我々がコーヒーを飲んだレストハウスの屋根面積を測っていると、雨樋が地下へ下りているではないか。

早速、この店の施設担当の人を訪ねました。「屋

根に降った貴重な雨水を、ただ流すのはもったいないから」と施設の雨水利用について語ってくれました。測定したところ、建物の屋根集水面積は約800m²で、雨水タンクの容量は約37m³でした。この雨水は、主にトイレの洗浄水に使用されます。富士山5合目での水道料金は、1m³当たり20,000円と、超高価です。水道といつても、麓からローリー車で運ばれた水を購入します。「ただ流すのはもったいない」には実感がこもっていました。

なお、この建物以外は雨水を集水するための、雨樋が屋根についておりませんでした。森林被害を少なくするための雨水排水の軽減はもちろん、高すぎる水代金の低減のためにも、この近辺の建物には雨水利用が早急に求められていると思いました。

オートキャンプ場での予備調査

アウトドアブームで人気の高いオートキャンプ場の水利用状況の調査も今回の目的です。我々は富士山5合目をあとにして、最近開業した「キャンプビレッジPICA富士吉田」に到着、宿泊しました。

このキャンプ場は豊富に上水を使用することが出来、炊事場では温水もでました。各テントサイドには給水栓が設置されており、管理棟にはシャワー室もありました。さらに、冷暖房完備の宿泊施設などがあり、一軒当たり20m²前後の雨水集水面積を有していることが判明しました。

今回は、予備的な調査に留まりましたが、これか

らは施設管理者への面接アンケート活動などを通じて自然に接するオートキャンプ場での水利用のあり方と雨水利用の可能性について、提言することの重要性を強く感じました。

センサー利用の初期雨水カット

翌日、「山梨県八田村立ふるさと伝承館・天文館」を訪問しました。昔からこの地方に伝わる生活の知恵を若い世代に伝えたり、窯業釜による土器の手作りなどを体験できる施設です。

この建物の雨水利用は、今年の市民の会主催の雨水利用コンテストで、実践部門の最優秀賞を受賞しています。館長ならびに雨水利用施設を設計した秋山氏の案内で見学しました。

屋上約500m²から雨水を集水していますが、初期汚濁水を天水槽に入れないとため、水漏れセンサーを使っている点が大きな特徴です。この水漏れセンサーを使った初期雨水カットは、秋山さんのアイデアによります。

天水槽は7.8m³の容量があり、水槽内部に砂、木炭、活性石、有孔レンガを層状に敷いてろ過層を作っています。天水槽は、建物の広場の地下に設けられており、手押しポンプで自由に、必要なときに使えるようになっています。雨水の使用目的は、体験広場の洗浄水、植栽・庭への散水、消防用水です。

この建物のふるさと伝承館という性格上、雨水利用を導入された意義は、大きいと考えます。

信玄堤の「こころ」

山梨県 古屋 美和子

去る9月には市民の会の皆さまを山梨県が誇る信玄堤へご案内できましたこと、父も喜んでおりました。父は山梨の歴史、特に信玄堤について、長年研究を重ねております。

ご存じのように信玄堤は釜無川、御勅使川の合流するところに、武田信玄によって築かれたもので「かすみ堤」とも言います。増水した川の激流を、分水して弱めるために幾つもの堤防が重なるように工夫されています。

このように自然を利用する知恵は、雨水にも通じるものと思います。私たちの雨水利用を進める活動は、まず墨田区の路地尊などの見学から始まりました。その後、身近な問題として、川の汚染度を調べて市民展で展示発表をしました。さらに、東京国際会議や雨水フェアに参加して、学ばせていただきました。

現在、環境問題の推進役でもある県当局に、墨田区などの実態をふまえて、提言を続けております。

8/6



東京で ■ 高原 純子

雨
水
の
日
に

街頭宣伝 雨に因んだ曲を流すちんどん屋さんを先頭に、上野、浅草、リバーサイドホールの周辺などで2000枚のチラシを撒きました。この日のために「ちんどん屋部会」を作って、準備を進めたメンバーの4人は粋な(?)浴衣がけです。そのほか静岡の菊池さん、多摩の高橋さんが駆けつけてくれました。ちんどん屋さんはテレビの記者、カメラマン、おっかけの少女まで引き連れて9人。総勢15人の賑やかな街頭宣伝になりました。

ちんどん屋を見つけた子供たちは目を輝かせ、大人は郷愁の表情で顔をほころばせます。チラシはあっという間に無くなって、足りないくらいでした。雨水利用について質問する人、チラシを貰ったからと「雨水の夕べ」に駆け込んで来る人もいて、街頭宣伝は大成功でした。

「雨水の夕べ」 リバーサイドホールでの落語とコンサートの集いは参加者300人。熱気に溢れたものになりました。2年前の東京国際会議の折りにお茶の接待を担当してくれた東駒形と緑町のご婦人たちの懐かしい顔も多く見られました。

「市民の会では平成7年に、8月6日を雨水の日と決めました。今日は、雨水利用を日本から世界に広める決意を確認する、記念の日です」辰農会長の挨拶のあと、「邦楽花しょうぶ」による尺八と琴の音色にうっとりと聴き入りました。藤兵衛師匠の落語には、鎌ヶ谷から来られた、南さんの小学生のお嬢さんがお腹をかかえて笑う姿が、近くにいたので、微笑ましく、印象的でした。

④ 多摩市(山本 信子さん)

8月6日に1時間で約100枚のチラシを配りました。特に若い人を中心に配るようしました。やっぱり主婦ではヒマがなくて、わざわざ墨田区までは無理だなと思いました。

⑤ 千葉市(石川 敏雄さん)

8月5日に京成津田沼駅周辺で100枚ほど配りました。雨の日と雨水利用の呼びかけを書いたポスターを自分で作って、首から下げました。

⑥ 水俣市(沢畠 亨さん)

地域の農産物物産館にチラシを置かせてもらいました。仕事が農業で、自分の山でミカンを栽培している関係から、その作業小屋には屋根の水を貯める施設があります。

⑦ 名古屋市(松田 民生さん)

自分の会社と関連会社の方々にチラシを配りました。意外と年配のいわゆる、偉い人の方が、水や環境への関心が強くて、若い人ほどそうでもないようです。

⑧ 石川県松任市(長田 昭夫さん)

県の工業試験所、工業技術センター、環

境部、各市民団体などにチラシを配りました。この週は水の週間ということで、県の環境部ではポスターが貼られているだけ何もやっていないことを知り、とてもがかりました。

⑨ 浜松市(山形 美恵子さん)

8月6日に駅前で150枚くらいのチラシを配りました。特に年配の方が関心を示してくれて、昭和30年代頃にはどの家庭でも貯水槽があったことを懐かしく語ってくれました。このチラシ配りのことは、知人の新聞記者に頼んで記事にしてもらいました。

⑩ 松戸市(磯村 光良さん)

70才位の方が、前から天水樽をついたいと思っていました、と話かけて来た。ゆかたを着てチラシ配ると目立つので、来年もゆかたがけで雨水の日のチラシを配ろうと思います。

他にもたくさんの方々に、全国でチラシ配りなどを通じて雨の日のイベントに参加して頂きました。紙面を通じて感謝の意を表したいと思います。

各地

松山市

♪ サンバのリズムの松山おどり ♪

雨水の歌と踊りで、今年も参加

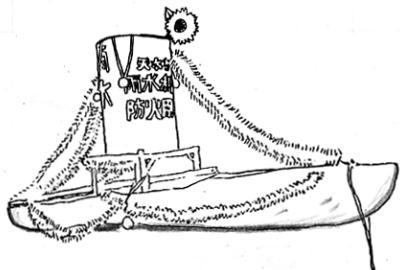
桑島さん、五十人の子供たちと



「皆さまお元気ですか。8月11日の松山サンバ大会の写真とビデオを送ります」と、手紙が届きました。「あまみず」2号の「こんにちは」欄でご紹介した、松山市の桑島正治さんです。去年の雨水フェアで「雨水の歌」がみごとアイデア部門の優秀賞になった方です。軽快なリズム、今年の雨水フェアでも聞くことができました。

サンバ大会には去年に引き続いでの出場な

ので、参加者が集まるかどうか心配したそうです。でも、去年以上の50人もの参加があり、桑島さんもびっくり。奥さんが作ったコスチュームを着て、お化粧をしたかわいいチームが、



飾りつけした天水尊を先頭に、踊りながら松山市内を練り歩きました。

「雨水利用が、松山の双葉中学校、味生（はぶ）公民館にも広がりました。東京での自治体会議などのなせるわざです。お元気でお過ごしください」と結ばれています。

（今）

◆ラジオ深夜便に出演

NHKの「ラジオ深夜便」が今、若者たちの間で人気があるのだそうです。7月29日の「こころの時代」に辰農会長が出演、インタビューの形で雨水利用について、じっくりと語りました。8月5日～8日まで、同じ番組の「ナイトエッセイ」に村瀬さんが出演しました。雨水利用との出会い、「東京国際会議」のこと、世界の雨水利用などを、4日間にわたり話しました。

◆上林裕子さん、『世界』に書く

雑誌『世界』10月号に会員の上林裕子さんがドイツの雨水利用について書いています。ドイツの先進的な雨水利用の、さまざまな工夫・実践が、たくさんのカラー写真つきで説明されており、とても参考になりました。今年4月に市民の会で行った「ドイツ雨水調査」をもとにしたものです。「写真はどなたが」と見れば、小沢一昭、小板橋一之、とありました。きっと、たくさん的人が読んでくれたことでしょう。



◆「ドクトル雨水」の誕生を祝う会

「ドクトル雨水」とは、ご存じ村瀬誠さんです。9月27日（金）夜、東京、アルカティア市ヶ谷で開かれたパーティは130人の出席者で盛り上りました。みなさん、それなりにパーティらしい服装ですが、中でも素敵と感じた人を2人。一人は世話人としてがんばってこられた人見さん、いつものジーンズに野球帽姿がとても新鮮でした。もう一人は「正装ジンベエ」姿の徳永さんです。決まっていました。写真をお見せできないのが残念です。

◆雨水フェスタに参加

10月13日（日）、建設省主催の雨水フェスタが足立区の河川敷で開かれました。市民の会から長尾さん、石川さん、牛野さんが参加し、市民の会のパネルと雨水タンクの展示、書籍の販売をしました。

◆地球環境基金の助成決定

申請していた、地球環境基金の市民の会への助成が決定しました。金額は185万円です。



墨田川高校・文化祭



「雨水利用を取りあげました」

市民の会の今泉さん（都立墨田川高校教諭）のご紹介で、クラスの生徒さんから文化祭で雨水利用について発表したお話を伺いました。文化祭と言えば、夜店、おばけ屋敷、コンサート、ゲームなどが定番とされる中、嬉しいことに彼らは雨水利用をテーマに選んでくれました。3人の生徒さんのお話を紹介します。

「10班に分かれて周辺の雨水利用施設などを調べて、3枚づつポスターを作ったんです。私達は百花園を調べに行って、雨の手ぬぐいをお借りしてきました。」と永宮さん。

「当日は台風で見学者の人数はいまいちだったけど、審査で16クラス中5位の入賞だったんですよ。こういう難しいテーマの発表でよく入賞

したと思いました。」と山本さん。「僕はペットボトルで簡易浄水器を作ったんだけど、雨水をろ過して飲んでなんともなかったな。雨水は裏の中学校の天水専用からもらってきてきました。」とは飯田君。

徳永さんも見学に来られて、「なかなかよく調べているじゃないか。」とのお誉めの言葉を頂いたそうです。

今泉先生も、「せっかくこれだけ調べたんですから、まとめてみんなの記念にできたらと思ってはいるのですが。」と仰っていました。雨水フェアの俳句コンテスト優秀賞の菊田さんもこの学校の生徒さんです。やるな～墨田川高校。

(M)

「稻と雨水探検隊の発表会」

実行委員大募集!!

教育部会 ◆ 荒川 春子

私達教育部会が「雨水探検隊」と「すみだの稲作り」の活動を始めて4年になります。

子ども達に対する活動は未来につながるものとして、この間ずっと、身近な環境に目を向け雨を見直す体験の場を作る努力をしてきました。

さて、来年2月、東京向島ロータリークラブの協賛を得て、今迄のこの活動の成果発表会を開くことになりました。これをきっかけに、これらの活動をもっと大勢の方に知ってもらい、広げて行きたいと思います。

そこで、このための実行委員を募集します。子どもの活動にご理解、ご関心のある方、是非、お力を貸しください！もちろん、当日スタッフも歓迎します。

実行委員になってくださる方、又は当日お手伝いいただける方は荒川宅までご連絡ください。（電話・FAX 03-3622-1048）



◆ 2度目の会報委員会は9月30日、原稿も続々と集まって、10月5日ごろには印刷できる予定でした。

風邪をひき、ぐずぐずと遅くなってしましました。お詫びします。

◆ 今回の特集、富士山の雨水調査はとても有意義な試みでした。「21世紀に、富士山の姿はどうなっているのだろう」。無惨な浸食沢に立って、不安を覚えました。「雨水利用は地球を救う」。ホントですね。

◆ 次号は12月12日発行の予定です。雨水の話題、近況など、事務局までお寄せください。